

JASE

現代性教育 研究ジャーナル

MONTHLY JOURNAL of SEX EDUCATION TODAY

2020 年

No. 109

2020年4月15日(毎月15日)発行

日本性教育協会

THE JAPANESE
ASSOCIATION
FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL https://www.jase.faje.or.jp 発行人 石川哲也 編集人 中山博邦
© JASE. 2020 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

プレコンセプション・ケアと性の健康教育……………	1	性教育の現場を訪ねて③⑦……………	10
思いこみのめがね②⑤……………	8	今月のブックガイド……………	12
多様な性のゆくえ③⑥……………	9	JASEインフォメーション……………	13

プレコンセプション・ケアと性の健康教育

一般社団法人日本家族計画協会理事長 北村邦夫

はじめに

筆者が、プレコンセプション・ケア (preconception care: 以下「PCC」) に関心を抱ききっかけとなったのは、米国疾病対策センター (Centers for Disease Control and Prevention: CDC) の提唱する PCC の定義⁽¹⁾を知ったことからだ。「PCC とは、いずれ子どもを持ちたいと考えている男女に、現在の自身の健康に関心を持ってもらうことを意味するとしている。それは、また、近い将来生まれるかも知れない子どもの健康を守るだけでなく、子どもを持つか持たないかにかかわらず、すべての男女の健康の保持増進をも可能にする。」

conception とは日本語で「受胎」「妊娠」を意味しており、preconception care はすなわち、妊娠前のケアとなるが、これでは少子化対策の一環かとの誹りを免れることができない。産むか産まないかはひとえ

に個人の選択であるとの立場を貫いてきた者の一人としては、これを推奨するには躊躇いがあった。しかし、次に続く「子どもを持つか持たないかにかかわらず、すべての男女の健康の保持増進」の言葉に救われた。PCC を妊娠・出産に留まらず広く「生涯を通じた健康」と捉え、しかも、「女性」に特化せず、「男女」としたことも評価される。

そのような観点から、改めて PCC を学ぶにつけ、長年に亘って取組んできた Sexual Reproductive Health and Rights (性と生殖に関する健康と権利、SRHR) や 2015 年 9 月の国連サミットで採択され、国連加盟 193 か国が 2016 年から 2030 年の 15 年間で達成するために 17 の目標を掲げている Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標、SDGs)⁽²⁾にも相通じるところがある。また、「性」という言葉からとかく偏見や誤解を生みかねない「性教育」。筆者は医療者として敢えて「性の健康教育」と表現するように努めてきたが、PCC はまさに「性の健康教育」そのものではないだろうか。本稿では、PCC を「性

の健康教育」⁽³⁾と関連づけてまとめることとした。

プレコンセプション・ケアとして 取り組むべき領域

CDC やわが国で先進的な取り組みをしている国立成育医療研究センターがPCCの具体的な課題を示しているが⁽⁴⁾、ここでは2012年にWHOで開催されたコンセンサスミーティングで、PCCの概念の整理や領域選定がなされた結果を紹介したい⁽⁵⁾。このミーティングでは、PCCに期待する13の領域を挙げている（下図）。WHOは全世界を対象として、「No one will be left behind（誰一人取り残さない）」を目標として掲げている国際機関であるから、わが国が抱えている現状と課題とは、かけ離れている領域もあるが、我々が「性の健康教育」を担当する際に取り組むべきテーマが提示されている。

蛇足になるが、WHOが示す領域に「Female Genital Mutilation（女性性器切除）」があるが、これなど、わが国の現状と照らすと、包茎であることは恥ずかしいと思い込んでいる日本人男性が美容形成外科医などに促されて行う「包茎手術」にも警鐘を鳴らすことになるかもしれない。

プレコンセプション・ケアをどこで、 誰に学ぶか

少子化社会対策基本法に基づく大綱（2015年3月閣議決定）では、同大綱の関連施策についての進捗状

況の点検・評価の参考とするための調査が行われている⁽⁶⁾。内閣府は、これら各種調査の中で、数値目標が定められている「妊娠・出産に関する知識の理解度」についての国民の意識を把握することを目的に分科会を設置し、調査内容、分析、報告書について検討した。筆者はこの分科会の委員の一人として参加している。

本調査は、PCCについての認識などを直接問うものではないが、若い世代の「妊娠・出産に関する意識」を知ることは、今後、わが国において、PCCをどこで、誰に学ぶかにヒントを与えるものとなるに違いない。また、本調査の対象者は15～49歳の男女となっているが、本稿の主題に沿って、特に「15歳～19歳」に特化して、その結果の一部を紹介したい。

1. 妊娠・出産に関する知識の理解度（表1）

「医学的に、男女の加齢により妊娠しにくくなる」など、妊娠や出産に関する知識について、「よく知っている」、「ある程度知っている」、「あまり知らない」、「全く知らない」の4段階で聞くと、女性では、「知っている」（「よく知っている」と「ある程度知っている」の合計）は、「②妊娠の年齢が高くなるほど、自然流産率や妊娠中の異常（産科合併症）の発症頻度、子供の染色体異常などのリスクが高くなる」が84.8%と最も高く、「⑥卵子は胎児のうちに一生分がつくられ、出生後に新たにつくられることはない」が36.6%と最も低くなっている。この傾向は、15～19歳の女性についても同様で、それぞれ73.7%、28.7%であった。

また、これらの知識に関する男女差は顕著で、「⑧

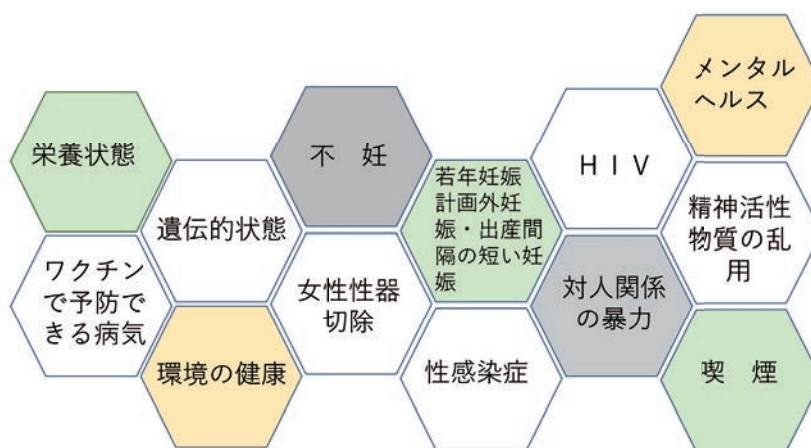


図 プレコンセプション・ケアとして取り組むべき領域（WHO）

表1 妊娠・出産に関する知識（よく知っている・ある程度知っている合計）

	男性		女性	
	合計	15～19歳	合計	15～19歳
回答者数	5,443	623	5,383	613
①医学的に男女の加齢により妊娠しにくくなる。	60.9	59.7	77.7	68.5
②妊娠の年齢が高くなるほど、自然流産率や妊娠中の異常（産科合併症）の発症頻度、子供の染色体異常などのリスクが高くなる。	66.3	58.1	84.8	73.7
③周産期の胎児・新生児の死亡率は、20歳未満や30代後半以降で高くなる。	34.9	32.1	53.0	41.4
④喫煙は男女の生殖機能に影響を与える可能性がある。	66.0	66.8	77.6	70.3
⑤性感染症の中には、不妊症の原因になるものがある。	43.0	53.9	59.7	56.9
⑥卵子は胎児のうちに一生分がつくれ、出生後に新たにつくられることはない。	22.6	24.1	36.6	28.7
⑦精子は加齢とともに徐々につくられる数が減少する。	64.4	57.8	68.3	54.2
⑧不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある。	66.8	57.6	62.9	67.2
⑨不妊に対する治療を受けても、女性の年齢が高いほど出産に至る可能性は低くなる。	59.6	50.9	77.7	63.3

表2 妊娠・出産に関する情報の最も主要な提供元（「よく知っている」「ある程度知っている」を選択）

	男性		女性	
	合計	15～19歳	合計	15～19歳
回答者数	5,443	623	5,383	613
家族	9.2	3.4	3.7	5.6
友人・知人	4.9	3.6	6.5	2.6
テレビ番組・テレビCM	22.1	13.4	25.2	15.1
本・雑誌	5.3	2.6	7.6	3.5
新聞	2.1	0.8	1.3	0.2
インターネット（SNSやアプリなども含む）	23.5	13.6	24.6	12.1
病院のポスター・冊子など	3.0	1.8	4.1	0.7
医師や看護師などの医療従事者	5.9	3.0	7.0	1.9
学校の授業	9.1	43.5	9.8	50.1
市区町村（自治体）からの案内	0.3	0.2	0.3	0.0
その他	0.4	0.4	0.5	0.4
わからない・覚えていない	14.3	13.6	9.4	7.8

不妊の原因は、男性に原因がある場合、女性に原因がある場合、男女両方に原因がある場合がある」を除いて、男性の理解度の低さが目立っている。いずれにせよ、これら知識の理解度が低い項目については、学習によって若い世代での理解を深めていくことがPCCに極めて重要であることは言うまでもない。

2. 妊娠・出産に関する情報をどこで知ったかと信頼できる提供元

妊娠・出産に関する最も主要な提供元を聞くと、男

性では「インターネット（SNSやアプリなども含む）」が23.5%（女性24.6%）でトップ、女性では「テレビ番組・テレビCM」が25.2%（男性22.1%）であった。一方、15～19歳についてみると、「学校の授業」を挙げた者が男女共に圧倒しており、男性43.5%、女性50.1%という結果であった（表2）。

若い世代にとっては、「学校の授業」が果たす役割の大きさを窺い知るとともに、妊娠・出産を含むPCCに関連した情報を学校現場で積極的に教育していく必要がある。その一方で、「妊娠・出産に関する

表3 妊娠・出産に関する情報の提供元として最も信頼できると思うもの

	男性		女性	
	合計	15～19歳	合計	15～19歳
回答者数	5,443	623	5,383	613
家族	12.0	8.5	8.0	9.6
友人・知人	3.2	4.0	3.8	3.6
テレビ番組・テレビCM	8.4	5.9	8.2	4.2
本・雑誌	4.1	3.2	3.7	1.5
新聞	1.8	1.1	1.0	0.2
インターネット（SNSやアプリなども含む）	5.4	4.8	4.0	2.0
病院のポスター・冊子など	5.1	2.9	7.5	5.1
医師や看護師などの医療従事者	29.5	23.8	43.3	34.1
学校の授業	9.0	24.2	8.2	25.3
市区町村（自治体）からの案内	1.2	1.1	0.5	0.3
その他	0.2	0.5	0.2	0.0
わからない・覚えていない	20.1	19.9	11.7	14.2

情報の提供元として最も信頼できると思うもの」を聞くと（表3）、全体では、主要な情報元であった「インターネット」が激減し、「医師や看護師などの医療従事者」が増えている。15～19歳の男女でも、「医師や看護師などの医療従事者」を最も信頼できるとした者が、それぞれ23.8%、34.1%、「学校の授業」が24.2%、25.3%と高くなっている。

これらの結果を踏まえると、若い世代に対するPCCへの介入は、学校において、医師や看護師などの医療従事者を外部講師として行われることが望ましいのではないかと考えられる。

国際セクシュアリティ教育ガイダンスとプレコンセプション・ケア

『International Technical Guidance on Sexuality Education』⁽⁷⁾が、性教育に関心のある人たちの間で注目を集めている。

これは、UNESCO（国連教育科学文化機関）がUNAIDS（国連合同エイズ計画）を共同スポンサーとして、UNFPA（国連人口基金）、WHO（世界保健機関）、UNICEF（国連児童基金）など、セクシュアリティ教育に尽力している世界各国の専門家によって著わされたもので、世界の標準的なセクシュアリティ教

育のガイダンスとして位置づけられている。

わが国でも、『国際セクシュアリティ教育ガイダンス』⁽⁸⁾として2010年版が日本語訳されているが、インターネット上では改訂版（2018年）⁽⁷⁾を閲覧することができる。

このガイダンスでは、学習目標について以下の8つのKey Concepts（基本構想）が示されている。

1. 人間関係
2. 価値観、権利、文化とセクシュアリティ
3. ジェンダーに対する理解
4. 暴力と安全
5. 健康と Well-being（完全に良好な状態）を保つためのスキル
6. 人間の身体と発達
7. セクシュアリティと性的行動
8. 性と生殖に関する健康

これらKey Conceptsには2つから5つのトピックスが記載されているが、最新の英語版ガイダンス⁽⁷⁾について、“preconception”をキーワードに検索してもヒットはしなかった。しかし、直接的ではないとはいえ、PCC介入パッケージの領域に該当する箇所があることは明白で、上記3、4、5、6、8の中で、性の健康教育の主たる対象者である「12～15歳」、「15～18歳 それ以上」に絞って「学習のねらい」の概

Key Concept 3—ジェンダーに対する理解

3.3 ジェンダーに基づく暴力 (gender based violence: GBV)	
12～15 歳	・大人、若者、権威ある立場の人による GBV は、すべて人権侵害にあたる
15～18 歳 それ以上	・親密なパートナーによる暴力は実害をもたらす、暴力を受けた人々へのサポートがある。 ・すべての人にジェンダー平等を提唱する責任があり、性的虐待、有害な社会規範に基づく慣習、その他の形態による GBV など、人権を侵害する暴力に声を上げて反対しなければならない。

Key Concept 4—暴力と安全

4.1 暴力	
12～15 歳	・性的虐待、性的暴行、親密なパートナーによる暴力といじめは、人権侵害である
15～18 歳 それ以上	・暴力を受ける恐れなく人々が健康で幸福に過ごせるよう啓発する責任が、すべての人にある
4.2 性的同意、プライバシー、身体の自主権	
12～15 歳	・誰でも、プライバシーと自分の身体について意思決定できる自主権を有する ・どのような性的な行動をとるか、とらないかについてを決めるのは自分自身であり、相手（パートナー）と積極的にコミュニケーションをとって性的同意を得なければならない。
15～18 歳 それ以上	・同意は、パートナーと健康的で、快適で、合意の上で行われる性行為に不可欠である ・相手に同意を示す能力に影響を及ぼす要因（物事）が存在するということを認識した上で行動することが肝要である
4.3 情報通信技術の安全な使用	
12～15 歳	・インターネット、携帯電話、ソーシャルメディアへの利用によって意図せずに第三者の性的関心を煽る可能性がある ・性的に露骨なメディアや画像は、性的興奮を高め、結果として害を及ぼす可能性がある
15～18 歳 それ以上	・ソーシャルメディアを使うことのメリットは数多くあるが、モラル、倫理、法的に危険な状況に置かれる可能性も高く、慎重な使用が望まれる ・性的に露骨なメディアは、結果として、性行動、性反応、身体の表象について非現実的な理解をもたらす可能性がある

Key Concept 5—健康と Well-being（心身の良好な状態、幸福）を保つためのスキル

5.1 性行動に関する規範とピアによる影響	
12～15 歳	・社会的ならびにジェンダー規範やピアによる影響が、性の意思決定や性行動に影響を及ぼすこともある ・ピアが性的決定や性行動に影響を及ぼすこともある ・ピアによって性的決定や性行動に否定的な影響に与えられることを防ぐための戦略がある
15～18 歳 それ以上	・自らの性行動について合理的な決定を下すことができる
5.2 意思決定	
12～15 歳	・性行動に関する意思決定のプロセスには、起こりうるすべての正と負の結果を考慮できる ・性行動に関する合理的な決定をしにくくする要因がある
15～18 歳 それ以上	・性の意思決定によって、自分と他者に社会的および健康上の影響を与えることを理解している ・性の意思決定によって法律上の問題が起きることもある
5.3 コミュニケーション、拒絶と交渉の技術	
12～15 歳	・いいコミュニケーションは、個人、家族、学校、仕事、恋愛関係を成り立たせる上でとても大切である
15～18 歳 それ以上	・個人のニーズと性的な限度を伝達するために、効果的なコミュニケーションが重要である
5.4 メディアリテラシーとセクシュアリティ	
12～15 歳	・セクシュアリティと性的関係について非現実的なイメージを伝えるメディアも中にはあり、その表現が個人のジェンダーと自尊心の認識に影響することがある
15～18 歳 それ以上	・男性もしくは女性の否定的で不正確な描写に異議を唱えることで、肯定的な行動をするように意識を向けたりジェンダー平等の推進をしたりできる
5.5 援助と支援が必要な時	
12～15 歳	・質の高い情報とサービスを得るために、その提供元（サービスや情報の提供者）を確認することが大切である
15～18 歳 それ以上	・誰でも適正価格で事実に基づき、利用者を尊重して機密性とプライバシーを守る支援を受ける権利がある

Key Concept 6—人間の身体と発達

6.1 性と生殖に関する解剖と生理学	
12～15 歳	・思春期と妊娠期において、ホルモンは成熟と生殖に関わる多くのプロセスに強く作用する。 ・すべての文化は異なる理解の仕方でもセックス、ジェンダー、生殖を位置づけ、いつごろから性的に活発になるのがふさわしいかを体系づけている。
15～18 歳 それ以上	・男性と女性の身体は、時間の経過とともに生殖や性的能力および機能が変化する。
6.2 生殖	
12～15 歳	・生殖機能と性的感情のあいだには隔たりがあり、時間の経過とともに変化していく。
15～18 歳 それ以上	・誰もが妊娠するわけではないが、妊娠を希望する人には不妊治療という方法もある。
6.3 思春期	
12～15 歳	・思春期は性的に成熟する時期であり、青年期とは身体的にも、情緒的にも、社会的にも、興奮とストレスに満ちたものになる。
15～18 歳 それ以上	・ホルモンは、生涯を通じて個人の情緒的、身体的変化に大きな役割を果たす。
6.4 身体イメージ	
12～15 歳	・自分の身体をどのように受け止めているかが、本人の健康、自己イメージ、行動に影響を与える。
15～18 歳 それ以上	・身体的外観に関して非現実的なレベルを追い求めることがある。

Key Concept 8—性と生殖に関する健康

8.1 妊娠と妊娠の防止	
12～15 歳	・避妊法によって避妊の確率、効果が異なり、長所と短所がある。 ・性的に活発でふつうに避妊している若い人たちは、能力や婚姻形態、ジェンダー、性的アイデンティティ、性指向などに関係なく、あらゆる避妊法を労せず選べるようにすべきである。 ・若すぎる出産や次の出産までの期間が短すぎる場合、健康を脅かすことになる。
15～18 歳 それ以上	・避妊することにより、性的に活発な人たちは妊娠を防ぐことができ、子どもをもつかどうか、またいつ子どもをもつかを計画できるので個人や社会に益をもたらす。 ・若い人が意図しない妊娠に直面したとき、健康とより良い人生のためにだれでも支援サービスや保護施設につながるべきようにしなければならない。 ・子は生まれたものの親が準備不足であったり親になることができない場合、里親（に代ってもらうこと）は選択肢の一つである。 ・治療行為によって妊娠中の健康状態を好転させたり、脅かすものがある。
8.2 HIV / AIDS の兆候、治療、ケア、支援	
12～15 歳	・ふさわしいケアを行い、尊厳を保ち、支援すれば、HIV に罹っている人々は差別から解放され、とても生産的な生活を送ることができる。 ・HIV 感染の有無を問わず、すべての人は同等な権利を有しており、性的な感情を表して他者を愛し、結婚したり、長く連れ添うことは当然のことである。 ・HIV に罹っている人々への支援団体や支援プログラムは有用である。
15～18 歳 それ以上	・ふさわしいケアを行い、尊厳を保ち、支援すれば、HIV に罹っている人々は生涯にわたってとても生産的な生活を送ることができる。
6.3 HIV を含む STI のリスクを理解すること、認識すること、軽減すること	
12～15 歳	・クラミジア、淋病、梅毒、HIV、HPV のような STI は、予防し、治療を行い、管理することが可能である。 ・性的健康サービスの内容として、HIV 検査・治療、コンドームの用意などが考えられる。また場合によっては、PrEP（プレップ：曝露前予防投与 pre-exposure prophylaxis）と PEP（曝露後予防投与 post exposure prophylaxis）あるいは VMMC（HIV 予防の医療行為である自発的な男性割礼 voluntary medical male circumcision for HIV prevention）を行うという方法もある。これらのさまざまなサービスは、人々はどれくらい HIV 感染に脆弱性があるかを受け止め、必要に応じて検査したり治療に行くようになることを促す。
15～18 歳 それ以上	・コミュニケーションにより交渉や拒否をするスキルは、若い人が望まない性的圧力を回避することや、より安全なセックスを守り続けていこうとする姿勢を強めるのに役立つ。（安全なセックスとは必ずコンドームを使用し、また避妊することである。） ・性的に活発な人にとって、感染への脆弱性を減らすためにどの方法をとるかを決めるには、本人がどのような自己効力感をもっているか、脆弱性をどのように認識しているか、ジェンダーとして役割、文化および本人をとりまく人たちの常識が影響する。 ・性的健康サービスの内容として、コンドームの提供、HIV 検査・治療などが考えられる。また場合によっては、PrEP と PEP または VMMC を行うという方法もある。これらのサービスを通じて、他の STI に関する検査・治療、避妊についての検査・治療、そしてジェンダーに由来する暴力についての検査・治療を行うことは、人々がどれくらい HIV 感染に脆弱性があるかを受け止め、必要に応じて検査したり治療に行くようになることを促す。

略を以下まとめた。性の健康教育の内容を構築される際に、是非とも参考にされたい。

まとめ

「性教育」が扱う課題は、あまりにも多岐にわたっていることもあり、産婦人科医である筆者が行う「性教育」については、医療現場での経験を活かした「性の健康教育」として語るようになって久しい。

具体的には、「若年妊娠・計画外妊娠」、「避妊・中絶」、「性感染症」、「デートDV」、「喫煙」、「子宮頸がん予防とHPVワクチン」、「不妊」、「メンタルヘルス」などであり、WHOが提唱するPCC介入プログラムとして取り組むべき領域に該当するテーマが大半を占めている。

そのような意味では、「性の健康教育」はPCCと密接に関係していると言える。CDCによるPCCの定義にあるように、「近い将来生まれるかも知れない子どもの健康を守るだけでなく、子どもを持つか持たないかにかかわらず、すべての男女の健康の保持増進をも可能にする」という熱いメッセージを今後も伝えていきたいと考えている。

(文献)

- (1) CDC: Overview, <https://www.cdc.gov/preconception/overview.html> (accessed 2020 Mar. 4)
- (2) UN: About the Sustainable Development Goals. <https://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/> (accessed 2020 Mar. 4)
- (3) 北村邦夫: 性の健康教育. 産科婦人科臨床 6 女性ヘルスケア. 290-301. 2019
- (4) 国立成育医療研究センター・プレコンセプションケアセンター: プレコンセプションケアとは, <https://www.ncchd.go.jp/hospital/about/section/preconception/index.html> (accessed 2020 Mar. 4)
- (5) WHO: Preconception care: Maximizing the gains for maternal and child health. https://www.who.int/maternal_child_adolescent/documents/preconception_care_policy_brief.pdf (accessed 2020 Mar. 4)
- (6) 内閣府: 妊娠・出産に関する意識調査 報告書. https://www8.cao.go.jp/shoushi/shoushika/research/h30/zentai-pdf/pdf/pd_cover.pdf (accessed 2020 Mar. 4)
- (7) UNAIDS・UNFPA・UNICEF・UNWOMEN・WHO: Revises edition- International technical guidance on sexuality education - An evidence-informed approach, <http://unesdoc.unesco.org/images/0026/002607/260770e.pdf> (accessed 2020 Mar. 4)
- (8) UNESCO 編: 国際セクシュアリティ教育ガイダンス (浅井春夫・長香織・田代美江子・渡辺大輔 = 訳). 東京: 明石書店; 2017. 213 頁.

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

※新型コロナウイルス感染予防のため、しばらくの間ご利用いただけません。

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約6万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

【閲覧】必ず事前に電話で予約が必要です (tel 03-6801-9307)。貸出業務は行っておりません。

【開室日・時間】月～金曜日 10:30～17:30

【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始 ※その他、会議等で臨時に休室することがあります。

【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず1枚10円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html>

資料室 利用方法

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー (自然科学系、人文・社会学系)、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際 (海外団体資料・海外学術誌)、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイヤモンド文庫、ほか。

<https://www.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi>

思いこみ の めがね

シゲせんせーのポジティブライフ

鈴木茂義 Suzuki Shigeyoshi



公立小学校非常勤講師。14年間の公立小学校正規教諭、主任教諭を経験。
専門は特別支援教育、教育相談、教育カウンセリングなど。

春です。刻一刻と変わる世の中の状況に、一喜一憂の毎日です。それでも季節は巡り、公園の植物の鮮やかさが一層引き立つようになってきました。いつもと変わらぬ花を咲かせるその姿に、救われる思いがします。

最近、よく感じることもあるのです。LGBTQにまつわるコミュニティの中にいると、落ち着くし気持ちがいいのです。いわゆる「心理的安全性」が保障されているのだと思います。見えても見えなくても人には様々なストーリーがあり、それを互いに尊重し合おうとする雰囲気があります。自分の意見を言える雰囲気もあります。この場所にいると「実はもう世の中は、共生社会を実現できているのではないか」と思うことすらあります。

ところがです。いったんこのコミュニティから離れ日常生活に戻ると、共生社会や他者理解からは程遠いなあと感じることもあります。そのギャップに落ち込むこともあります。果たして世の中は進んでいるのだろうか？ そうではないのだろうか？ そんなことを綴る1年にします。

少し前に小学校で、PTA広報誌の教職員紹介の写真撮影の場に立ち会いました。撮影担当の方に私も写真を撮ってもらい帰ろうとしたところ、「シゲせんせー、この前テレビに出てましたよね。見ましたよ」と声をかけられました。予想していなかった声かけに慌ててしまい、私は「ど、ど、どうもありがとうございます。ど、ど、どうでしたか」と変な態度をとってしまいました（笑）。その保護者の方は取り乱す様子もなく、落ち着いて「いやー、とても面白かったし勉強になりました。いろいろな方がいるのは、子どもも大人も当然ですよ」と話してくれました。私はその言葉を聞いて、嬉しくなりました。私の中には、カミングアウトできなかった時代の「保護者の視線の怖さ」が根強く残っています。まだビクビクしてしまうこともあるのですが、保護者の方とこのようなやり取りを

する度に、その怖さがふっと溶けることがあります。

別の学校で、保護者向けの講演会を行った時のことです。性の多様性を入り口に、子どもも大人も互いのちがいのについて考える、ということをお話ししました。質疑応答のときにある保護者の方が、「同性パートナーシップの制度が各地で導入されているので、今後は同性婚についても進めていくべきだ。日本に婚姻の平等がないのはおかしい！」と力強くおっしゃっていました。その方は結婚してお子さんもいらっしゃる方ですが、そういう方が声をあげて下さることに、世の中の変化を感じます。

これまた別の学校で保護者面談をしていたとき、「シゲせんせーの活動を広報紙で見ました」と言われました。カミングアウトして活動すると、こんな風に広がっていくのだなと感じました。その保護者のお子さんの

話で面談を進めていたのに、いつのまにか私のライフストーリーを話す時間になっていました。まるで保護者の方に、私が面談をしてもらっているよう（笑）。「子どもたちにも

良さがあったり課題があったり。見えるちがいや見えないちがいがあったり。そのちがいを周りと比べて、落ち込んでしまうこともあったり。発達障害の子どもたちが見えづらいうちがいをもっているように、ゲイである自分もちがいをもっている。自分自身の当事者性が、教員の仕事に役に立っていると思うのです」「大学の専門も特別支援教育で、自分もゲイ。いま振り返ると昔からマイノリティとは何かを考えているのです」気づいたら、そのようなことを保護者と話していました。興味をもって私の話を聞いてくださり、「先生の話聞いて本当によかったです。先生とこうやって話せるの楽しいです」「子どもとも話してみます」とおっしゃってくれました。数年前では考えられない保護者との会話に、私も嬉しくなりました。

私は「世の中を変える」なんて大それたことは、まだまだできそうもありません。しかし保護者とのコミュニケーションを通して、まずは「半径1メートル」の世界を変えることならできそうです。今年度もよろしく願いいたします。

第25回

「シゲせんせーテレビで見ましたよ」 保護者とのやり取りから

「人」より「事」を観る

社会部の駆け出し記者だった1987年の春は、エイズパニックの取材に振り回され続けていた。いまはすでに定年を超え、新聞社を退職した身なので、懐かしく思い出さだけだが、当時は分からないことだらけで、心身ともにくたくただった。

2003年には編集者としてSARS（重症急性呼吸器症候群）の流行をフォローしたことがある。もちろん、性行為が主要な感染経路であるHIV/エイズと呼吸器感染症のSARSでは、感染の仕方も対策も異なる。だが、未知の感染症に対し、社会的な恐怖や不安が引き出す反応にはかなり共通した特徴もみられるようだ。

SARSの流行では、国内の感染事例は結局、一件も報告されなかった。台湾からの旅行者が日本から戻った後で、実は旅行中も発症していたと判明したケースが一例あり、もう何日もたってから、その人が滞在していた町で、白い防護服に防護マスクをつけた職員が地下鉄車両の消毒にあたる物々しい様子が報道された。

香港では当時、たった一人から多数の人に感染が広がったとして、発端となった人はスーパースプレッダー（病原体をまき散らす人）と呼ばれるようになった。

HIV/エイズの流行初期には、スーパースプレッダーという用語こそ聞かなかったが、「病原体であるHIVを性行為でまき散らす人」への恐怖と非難は世界各地で、しかも、かなりあからさまなかたちであった。典型的な例は1987年に全米でベストセラーになったランディ・シルツ著『AND THE BAND PLAYED ON』（邦題：そしてエイズは蔓延した）の中でペイシェント・ゼロ（0号患者）として紹介されたカナダ人の航空会社客室乗務員だろう。0号患者とは、流行拡大の出発点となった最初の患者といった意味だ。

ただし、これは誤りだったことが21世紀になって明らかにされた。AFP通信は2016年12月27日付で『「ペイシェント・ゼロ」、米エイズ流行の起源ではないと証明』と次のように報じている（欄外アドレス参照）。

『「ペイシェント・ゼロ」として同性愛者の男性が不当なレッテルを貼られたのは、患者番号の誤解と

1980年代のメディアの過剰な報道が原因だと決定づける研究結果が26日、発表された』

1980年代にサンフランシスコ・クロニクル紙の敏腕記者だったシルツは緻密な取材を重ね『AND THE BAND PLAYED ON』を発表した。私にとってはエイズ報道の教科書のような本だ。あれほどの記者でも、ついつい信じてしまうほどスプレッダー神話は強いのかと改めて思う。シルツ自身は1994年にエイズで亡くなっているが、生きていたらどう反応しただろう。

新型コロナウイルス感染症COVID-19の流行で世界は再び浮足立っている。個人的にも、重症化のリスクが高いとされる高齢者であり正直なところ不安もある。だが、今回は感染症や疫学の専門家の中に、そうした不安を払拭し、妥当な判断の目安を示してくれる見解を伝える人が多くなったようにも思う。SNSの発達で専門家が直接、見解を伝える手段を得るようになったことが大きいのかもしれない。

実地疫学の専門家の一人は流行分析の中で、スーパースプレッダーではなく、スーパースプレディングイベントという言葉を用いている。

「感染を広げる人」がいるのではなく、「感染が広がる出来事や状態」があると受け止める姿勢は重要だと思う。私がSNSでそのようなコメントを送ると「ご推察の通り」というお返事をいただいた。

「人」より「事」を重視し、感染した人を非難するような考え方は取らない。それは長年のHIV/エイズの取材から苦い経験とともに学んできたことでもある。国連合同エイズ計画（UNAIDS）は3月20日、HIVの流行の教訓をもとに『COVID-19時代の人権』という報告書を作成し、冒頭に7つの主要メッセージを掲載した。その7番目では「医療従事者を支援し、守りましょう。お互いにやさしくすることが大切です。信頼を構築し、制裁でなく連帯を広げていきましょう」と呼びかけている。人への非難を避け、排外的な気分と闘う。そのためにもいま、Be kind（やさしくなろう）というメッセージは重視したい。

[千葉県長生村立長生中学校] (上)

各学年と特別支援学級の4本柱ですすめる思春期教育

九十九里浜に位置する長生村は、千葉県唯一の村。人口は約14,000人。中学校は長生中学校が1校。ほかに保育所3所、小学校が3校ある。平成29年度より「長生村保小中一貫教育」がスタートした。長生中学校で実践していた思春期教育が広がりを見せて、性に関する保小中一貫教育にも取り組み始めたという。今回はその中心となる長生中学校の思春期教育の実践を紹介する。

長生中学校では、長年、性に関する指導を「思春期教育」という表現を使って、学年の発達段階に応じて実践している。1年生は思春期に伴う心とからだの変化をテーマに、養護教諭が各クラスで保健教育を実施。2年生はエイズ教室、3年生は思春期の性についてそれぞれ外部講師を招いて学んでいく。特別支援学級の思春期教室では養護教諭と男性教諭がT・T（チーム・ティーチング）で取り組んでいる。

中心となって思春期教育をすすめている深山結花養護教諭に、学年ごとの取り組み内容を紹介してもらった。

心とからだの変化を学ぶ思春期教室

「1年生の思春期教室は、当初は学年集会の形で行っていましたが、学年の先生からの要望もあり、3年前からクラスごとに取り組んでいます。自分のからだに関する悩み、学校における授業や部活動に関する悩み、友人関係に関する悩み、家族・自分における悩みなど、特別な内容ではなく、生徒たちの身近な悩みを取り上げています」と深山養護教諭。

1年生の思春期教育の進め方で悩んだのが、心の変化についての学びだという。

「生徒の心に届くためには、どのように伝えればよいのか考えました。まずは小学校1年生のときと今の自分の心の変化を比べて、自分自身を振りかえってもらおうと思いました」

生徒たちに、心の変化を尋ねると、友人のちょっとした言動にイライラする。親の存在がうっとうしい、気に障る、ウザい……そんな声がどんどん出てくる。

千葉県長生村立長生中学校

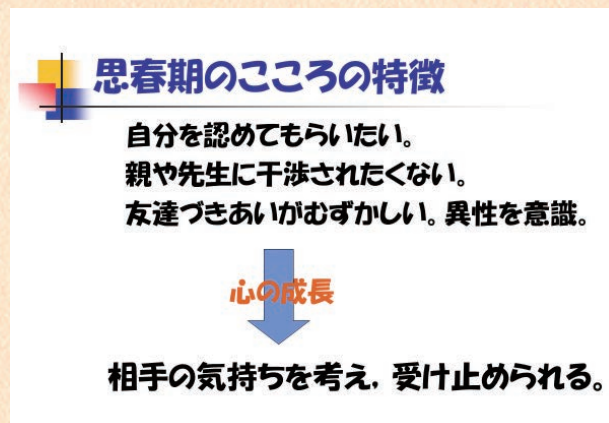
校長 佐藤洋光

生徒数 339名

教員数 37名

(2020年4月現在)

授業後に生徒たちに感想を書いてもらうと「ささいなことにもイラつく自分は性格が変わってしまったと思っていたけれど、授業を聞いて自分も思春期なんだと



1年生の「思春期教室」で使う深山養護教諭が作成したパワーポイント（抜粋）



2年生「エイズ教室」の授業風景

思った」、「クラスメートの声を聞いて心の変化にとまどっているのは、自分一人ではないとわかってほっとした」という声が多く寄せられるようだ。

思春期は、大人に干渉されたくないけれど自分を認めてほしい。そしてそろそろ異性の存在も気になってくる。こうした心の変化が自分にも起こっていることを生徒たちに気づかせて、『あなたも私も人がみな大切な存在である』、『大人になるということは相手の気持ちを考えること』ということ、授業で毎年必ず伝えているという。

授業参観日に行う「親子エイズ教室」

2年生においては、外部講師を招き、授業参観日を使って親子で学ぶエイズ教室を実施している。

講師は前任校からお付き合いがあり、エイズカウンセラーとしても長年つとめている臨床心理士の先生。深山養護教諭は「エイズの学習は、最新の情報やエイズ患者の気持ちを知る上でも大変貴重な学習。親子で学ぶ機会がないので、授業参観を利用して保護者の方にも学んでいただいています」と語る。

「エイズは死ぬ病気だと思っていました。エイズになったら死ぬという時代ではなくなったんですね」という感想は生徒、保護者両者の共通の声だという。

また、生徒の感想をいくつか拾ってみると「エイズや性感染症を知っているかいなかでまったく違う」、「予防を含めて、エイズがどういう病気かを知り、自分のためになった」、「エイズに対する世界中の人々の意見を聞きたい」、「エイズ患者に偏見をもたないようにしたい」など、深山養護教諭は「エイズ教室で学んで、子どもたちはエイズを身近に感じ取ることができたようだ」と語る。



3年生「思春期教室」の授業風景

3年生に実施する最後の思春期教室

卒業間近の3年生には最後の思春期教室ということで、男女交際のあり方、性の悩み、性感染症予防も含めて思春期の性について学び、さらに自分自身をより大切にした生き方を考える授業にしているという。

「2年生と同様に前任校からお世話になっている先生で、思春期保健相談士としても厚い信頼を得ている助産師の方をお招きしています。ズバズバと性に関するお話をしてくださるので、子どもたちは驚き、楽しみながら聞いているようです」と深山養護教諭。

授業後には、「個別に自分のことを相談したい」という生徒が何人も出て、講師の前に列をつくったこともあるという。

授業後のアンケートには「今までは性は恥ずかしいものというイメージだったが、今日の授業で考えが変わった」、「性を知ることとは生きることという講師の先生の言葉が強く残っている」、「自分が嫌だと思うことはきちんと言わなきゃダメ。無理して男子に好かれようとしなくていいんだよ、という言葉が心に残った」など、生徒たちの率直な感想が寄せられている。

「生徒の感想の中に『自分も相手も大切にしないでいい。たった1つの命だから』というものもあります。これは私が1年生に行う授業のポイントの1つでもあります。このことを3年間かけて教育してきたと思っています。3年生の感想を読んで、そのことが1人でも2人でも伝わっていた。うれしかったですね」と深山養護教諭はいう。

長生中学校が取り組む思春期教育の4本柱の1つである特別支援学級では、どのような内容で実践しているのか。それについては次号で紹介する。

(取材・文 エム・シー・プレス 中出三重)

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

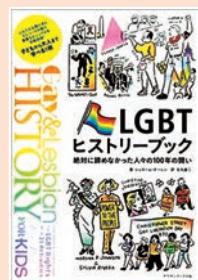
欧米のLGBTが背負った過酷な歴史

本書について、まず訳者あとがきから引用しよう。「同性愛で有罪を宣告されたオスカー・ワイルドが、反論すら許されなかった法廷で『私には？ 私は何も言うことができないのですか、裁判官どの！』と叫んだその無念を晴らすべく代弁してきた、LGBT コミュニティの 100 年以上に及ぶ言葉と行動の記録です」

原題には「FOR KIDS」という言葉が入っているのだが、大人が読んででも十分に勉強になるし、翻訳も読みやすい。面白さの理由は、LGBT の歴史を説明するのに、個々人の記録や証言をパッチワークのように繋げて、大きな物語としてまとめ上げているからだろう。やはり、固有名詞が格闘した経験の機微は、心に刺さるのだ。

例えば、コンピュータ開発の始祖として歴史に名前を残す英国人、アラン・チューリングは、第二次世界大戦中、ナチスの暗号を解読するチームを率いていた。戦後その功績で勲位を得るが、ホモセクシュアルであることが疑われると、政府の職を追われ、自死に追い込まれる。2009 年になってようやく、ブラウン首相から「ごめんなさい、あなたはもっとずっと大切に扱われるべきだった」と謝罪が表明されたという！

チューリングのような有名人ばかりが取り上げられているのではない。例えば、太平洋戦争時、サイパンに投入されていたとあるゲイの米兵。一緒に闘っていた同性の恋人と、戦後、一緒に暮らすことを約束していたが、不幸なことに恋人は日本兵に撃たれてしまう。「私はそこに立っていて、彼は私を見上げていて、私は彼を見下ろしていました。そのとき彼が言ったんです。『なあ、ジム、おれたち、ダメだった、な？』って。私の頬をただ涙だけが落ちていきました」。男女の夫婦同様に愛し合っていた二人なのに、喪失の悲しみを



LGBT ヒストリーブック

絶対に諦めなかった人々の 100 年の闘い

ジェローム・ポーレン (著)

北丸雄二 (翻訳)

サウザンブックス社

定価 2600 円+税

共有できる仲間はいなかった。

本書はそういったエピソードを通じて、欧米の LGBT が背負った過酷な歴史を詳らかにする。そして、改めてその流れを概観すると、欧米で「ゲイ」とか「レズビアン」といった（政治的）主体が広範囲に成立した理由がよくわかる。キリスト教道徳を基盤にした社会において、同性愛の欲望を持つものは執拗に排除され、行為や関係を法律によって禁止され、警察権力によって狩られ……排除されてきた。これだけ同性愛か異性愛かの線引きを不断に強いられば、その裏返しで政治的な主体が産出されざるを得ない！

翻って日本の LGBT は、欧米の当事者が血を流しながら獲得した対抗言説を援用しつつ、今日に至る。もちろん、この国でも前近代では、封建秩序を攪乱する意味から男色を禁止した藩もあったし、近代以降も西洋的な性愛倫理の輸入に伴い、同性愛への蔑視は広範に浸透した。現在でも異性愛者と同性愛者の若者の自殺率は有意に差がある。が、アメリカ社会のようなかくも苛烈な弾圧があっただろうか。

などと指摘するだけである種のアクティヴィズムから批判を受けかねない昨今だが、同性愛や性別越境への態度・意識は、やはり、社会によって異なる。誤解してもらっては困るが、抑圧感相対値ではなく、当事者のなかでは絶対値なので、今「痛み」を抱えている日本の当事者の苦しさは、欧米の当事者のそれと変わらない。そして、そういう困難を生み出している社会を変えていくのは当然のことだろう。

肝要なのは、変革を目指すものが、社会構造や文化風土の違いにセンシティブであること。なぜなら、差別に対抗するための適切な処方箋は、世界共通のイデオロギーからではなく、その国、その国の実態から導かれるべきものだからだ。そういう意味でも本書は、我々が学ぶべき経験や言説の宝庫である。

(作家 伏見憲明)

※しばらくの間、ご注文をお受けすることができません。ご了承ください。

「青少年の性行動／日中比較研究」 報告書 2019

30年ぶりに刊行できた本書が、経年調査の比較を含めて、両国の青少年の
性意識・性行動の実態を把握できる唯一の報告書です。

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
「第8回青少年の性行動全国調査」委員会内日中比較小委員会
協力／日本青少年研究所・上海社会科学院社会科学研究所

1974年に第1回が開始され、2017年に第8回を迎えた
「青少年の性行動全国調査」は本年8月に「若者の性」白書が
刊行されました。40年近く続けられたこの調査は、国内を始め
国外でも類例は極めてまれで、貴重な調査データとして国際的
にも認知されています。

今回の日本における調査に際して他国との比較研究を検討し、
上海社会科学院社会科学研究所の協力のもと、中国の青少年の
性行動に関してほぼ同一の質問用紙にて調査が実現しました。
調査地点は、北京・上海・広州の3地域であり、調査期間は
2017年10月から2018年3月までで、調査対象者は中学生・高
校生・大学生合計約5000人です。

〈主な内容〉

- はじめに
- 序章 調査の概要
- 第1章 性行動
- 第2章 性イメージの日中比較
- 第3章 避妊行動の日中比較
- 第4章 中国の若者の性行動とその動機
- 第5章 性の情報源の日中比較
- おわりに
- 付表・中国の青少年の基礎集計表



B5判 102ページ

頒価：1,000円



A4判 80ページ

頒価：1,000円



青少年の性行動

わが国の中学生・高校生・大学生に関する第8回調査報告

編集／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）
「第8回青少年の性行動全国調査」委員会

若者の性にかかわる行動、規範意識、情報源などが、この6年間でどのよう
に変容したかがわかる。若者の性を理解するための必須の資料！

2017年6月から同年12月にかけて実施した「第8回青少年の性行動全国調査」
の単純集計をまとめ一次報告書として刊行。主要な結果「デート経験」「キス経験」
「性交経験」などの解説と、全質問の中学生・高校生・大学生の男女別集計結果を掲載。

JASE ホームページ

<https://www.jase.faje.or.jp/pub/pub.html>

Email info_jase@faje.or.jp TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

●本書に関するお問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

一般財団法人 日本児童教育振興財団内 日本性教育協会（JASE）

〒112-0002 東京都文京区小石川 2-3-23 春日尚学ビル B1

TEL 03-6801-9307 FAX 03-5800-0478

Mail info_jase@faje.or.jp URL <https://www.jase.faje.or.jp>



JASE

「若者の性」 白書

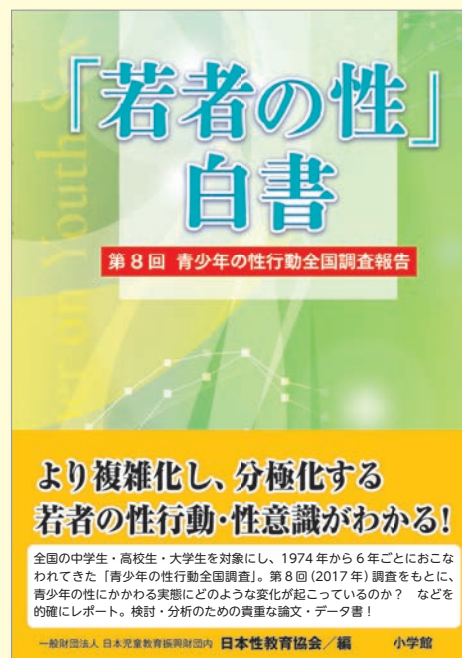
第8回 青少年の性行動全国調査報告

全国の中学生・高校生・大学生を対象にし、1974年から6年ごとにおこなわれてきた「青少年の性行動全国調査」。第8回(2017年)調査をもとに、青少年の性にかかわる実態にどのような変化が起こっているのか？ などを的確にレポート。検討・分析のための貴重な論文・データ書！

主な内容

- 序 章 第8回「青少年の性行動全国調査」の概要
- 第1章 変化する性行動の発達プロセスと青少年層の分極化
- 第2章 青少年の性規範・性意識からみる分極化現象
- 第3章 家庭環境や親子のかかわりの違いは青少年の性行動に影響を与えるか
- 第4章 知識・態度・行動の観点からみた性教育の現状と今後の課題
- 第5章 青少年の性行動と所属集団の性行動規範
- 第6章 青少年の避妊行動の実態と包括的性教育の可能性
- 第7章 性的被害と親密性からの／への逃避
- 第8章 青少年の性についての悩み
～自由記述欄への回答からみえるもの～
- 付表Ⅰ 「青少年の性に関する調査」調査票
- 付表Ⅱ 基礎集計表(学校種別・男女別)

- ※コラム
- 1…性情報について
 - 2…性教育をめぐる近年の社会的動向
 - 3…LGBT学生について
 - 4…男性の性的被害
 - 5…「青少年の性行動全国調査」の困難と課題



好評
発売中！

本体2,200円+税
A5判 256ページ

編／一般財団法人日本児童教育振興財団内 日本性教育協会 発行／小学館

全国の書店にて、ご購入いただけます！